

No.19 多発している地山、岩石 - 崩壊・倒壊の死亡災害事例（2018年）

2018年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者 規 模
10	12 ～ 13	市道脇の斜面上にて、台風による倒木の撤去作業のため、被災者はクレーン車で支えられた立木をチェーンソーで伐倒する作業を行っていたが、立木の伐倒後、伐倒木から離れた場所で待機していたところ、待機場所上方の幅2.5メートル、高さ5メートルの斜面の土砂が崩壊し、生き埋めになったもの。被災者は救出されたが、現場で死亡が確認された。	30199	711	5	1～ 9
9	16 ～ 17	深さ2.0メートルの掘削溝にハンドホール（コンクリート構造物）を敷設している際、掘削溝底面で作業を行っていた被災者の背後の法面が崩壊し、被災者は両膝付近まで土砂に埋没するとともに、崩壊した土砂の土圧によって前傾姿勢となり、腹部をハンドホールに強打したもの。	30301	711	5	1～ 9
7	8 ～ 9	河川の護岸工事において、盛土の上に大型土のう（約1.4トン）を置き、仮締切りした箇所に、2台目の水中ポンプを設置していたところ、大型土のうの下の盛土が崩れ、土のうの上で作業を行っていた被災者が土のうと一緒に落ち、土のうとの間に挟まれたもの。	30107	711	5	30 ～ 49
7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	711	5	300 ～ 499
	4	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏				300

7	~ 5	山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	711	5	~ 499
7	20 ~ 21	業務が終了し、取締役事業長の指示により、被災者は自動車と同僚を自宅に送る際、豪雨災害による土砂崩れに同僚とも巻き込まれ、被災し死亡したもの。	11502	711	5	10 ~ 29
6	8 ~ 9	汚水配管設置のための掘削（約H：1.8m×L：5m×W：1.4m）作業終了後、土止め支保工の矢板設置のため掘削箇所に入り、スコップで整地していたところ、掘削法面が崩壊して被災者の腰まで土砂で埋もれ、病院で死亡したもの。	30110	711	5	10 ~ 29
5	10 ~ 11	新設鉄塔の基礎工事における災害である。地山掘削、基礎の打設・養生が終了したため、周囲のライナープレートを撤去する作業をしていた。プレート同士をつなぐ48本のボルトのうち2本がライナーに押されて外れず、プレートを吊る4本のワイヤーの張力の偏りを修正するため、バケットを斜め上方に微動させた。直後に土圧でライナープレートが動き、土砂がライナープレートの下部から流入して肩まで土砂に埋まった。	30301	711	5	10 ~ 29
3	16 ~ 17	市発注の下水道工事（L=600m）において、民家へ引き込むための取出し管（事前に本管に取付けていた）周辺の掘削（最深部でH=1.7m）を行っていたところ、手掘りをするため掘削溝内に入った際、突然、碎石・土砂（H=0.8m×W0.5m）が崩壊し、被災者の首付近に直撃した。崩壊した碎石・土砂は、上部40cmが碎石であった。	30110	711	5	1~ 9
1	12 ~ 13	被災者は、旧水路と新設水路の接続用の鉄筋を差し込む箇所に目印を付すため、全長約35m、深さ約2.5mで掘削完了後一定期間が経過した掘削部に立ち入っていたところ、掘削法面の一部が崩壊し、生き埋めになった。その後、救急隊により病院に搬送されたが、死亡した。掘削箇所の土質は、その他の地山で、掘削面のこう	30199	711	5	1~ 9

配は、約70度であった。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_07.html